第2740地区 創立／1990年9月29日 認証／1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：大久保 厚司／副会長：浅野 訓一／幹事：本田 実

2014～2015年度クラブスローガン

貴方の輝くロータリーライフを
Your rotary life to glisten

2014～2015年度 RIテーマ
ロータリーに輝きを

〒857-0872長崎県佐世保市上京町3-2セントラルホテル佐世保419号室 TEL.0956-25-5595 FAX.0956-25-3445 Mail.chuo-rc@theia.ocn.ne.jp

本日の出席率７７．８%: 会員数４５名・出席３２名・欠席１０名・出席規定免除会員（３） ３名・ビジター０名
前々回の修正出席率１００%: 出席３０名・メークアッ１２名・出席規定免除会員２名

会長挨拶／大久保 厚司君



本日は新入会員の戸浦善彦君と宮﨑祐輔君の卓話ですので、「最近の進化論から学ぶロータリアンの共生」のお話をさせていただきます。

チャールズ・ダーウィンの人は猿から進化した等、「自然選択的と適者生存説に発する1859年種の起源」の進化論は誰もが知っています。

1953年にワトソンとクリックの「DNA」の発見、1980年英国のドーキンス は生命の本質は心や体ではなくDNAであるという利己的遺伝子論 ／突然変異、例えば、キリンの首はなぜ長い・・・中間の化石が見つかっていない・・・ミッシクグリンクの可能性も否定できませんので正論とはいえません。

1996年「生物学の未来」のシンポジウムで微生物学のマーギュリスは微生物30億年の進化で原核単細胞生物から始原多細胞に、動植物6億年の進化でエディアガラ動物群から人類までの進化の生物史の80%は微生物の進化によると、「生物は共生によって進化してきた」と共生進化を論じました。

再現性のある実験で検証されてこそ科学理論であり、動植物の進化実験では数千～数万年かかるので誰も否定できなかったのですが、微生物（大腸菌）は10日で100世代の世代交代ができます。

大阪大学の四方哲也氏は 1997年天然の大腸菌（W）とDNA操作で繁殖力増強大腸菌（大腸菌のグルタミン合成能力を高めた／H）とを同時培養液して、一定のエサを与えると、H: W＝ 3 : 1 で共存しました。総合進化説であればH株が優先して生き残り、W株は絶滅するはずです。更に色々な組み合わせをしてもW株の数は減りますが、淘汰はされませんでした。

また、テトラヒメナ（原生動物）にエサとして光合成をするシアノバクテリアを食べさせていましたが、酸素供給を止めるとそれまでのエサであるシアノバクテリアを消化しないで体内に残すようになり、シアノバクテリアの光合から得られる酸素に頼り始め、共生したのではないかと考えています。これは、とても簡単な実験で誰しもが再現でき、誰も否定することはできません。この「自然界は競争ではなく、相互作用 ／共生」に支配されていると考え、私たちの細胞自体もいろんな能力を持つものを取り入れて、今の細胞になったと推測されます。自然界では故意に絶滅に追い込まない限り、共生して生きるということです。

ロータリークラブでも異業種がより研鑽していますので、同じロータリアンは共生の基にEQを学ぶ場であるということ、同時に新入会員にはロータリーの教えを学んで頂きたいと思います。

Report 幹事報告／本田 実君

1．例会変更
佐世保ロータリークラブ
9月10日（水）12：30→18：30～
富士ホテル 観月例会のため

2．来 信
・国際ロータリー
①ザ・ロータリアン 9月号
②2015年ロータリー国際大会のご案内
期日 2015年6月6日（土）～9日（火）
場所 サンパウロ（ブラジル）
・ロータリーの友事務所
2014～15年度版「ロータリーの友」英語版発行のお知らせ
・ガバナー事務所
①地区補助金決定通知書、振込先指定書等の書類
②一般財団法人比国育英会「バギオだより」第44号
③ロータリー財団セミナーのご案内
日時 10月12日（日）10時～
場所 東彼杵町総合会館
④職業奉仕部門セミナー出席の御礼
・地区大会事務所
地区大会関係書
・ハウステンボス佐世保ロータリークラブ
活動報告書

committee 委員会報告

田代博之 中央会会長

今週9月7日（日）第1回中央会を行います。新ハンデイを設定しました。皆さん横並びです。どなたも優勝の可能性があります。あと、本年度はポイント制を導入し、参加した人、優勝した人

週報制作：会報・出席委員会／川島 千鶴、坂井 智照、田雑 豪裕、南部 建、山口 裕之、香月 章彦、岡田 文俊

でポイントが加算され、一年を通じて一番ポイントが多かった方に景品を差し上げます。

(^_^) ニコニコボックス

大久保厚司会長、浅野訓一副会長、本田実幹事

昼間はまだまだ蒸し暑い日が続きますが、朝夜といくらかしのぎやすくなってきました。今日は新入会員の宮﨑祐輔君、戸浦善彦君の卓話です。よろしくお願い致します。

牛島義亮君

8月の入場者数が前年対比200%でしたので、ニコニコします。恵の雨となりました。

馬場貴博君

今年の大雨で地すべり、土砂崩れが多発したため、設計も調査も大忙しでした。広島の皆様にはお見舞い申し上げます。

本日の合計	5,000 円
本年度の累計	260,000 円

本日の卓話

■ 新入会員卓話 ■

戸浦善彦君



皆さん、こんにちは。私は、46年前、南蛮船が来航した西海市西海町横瀬の産婆さんの処で産まれました。452年前ではありません・・・45、6年前です。

横瀬は皆さんご存知の通り、平戸の次に外国船が開港した所として栄えていましたが、戦争とか色々あって1年ちょっとで長崎が中心地となってしまいました。その当時の大村藩のお殿様であった「純忠公」は、日本で初めてのキリシタン大名と言われています。

産まれは横瀬ですが、西海橋に有名な三大急潮（潮流）にある猪ケ瀬戸、西海橋に向かって左手に針尾無線塔の3本立っている丁度真向い小郡（おぐり）という所で生を受けて育っております。その大村藩の中の小郡は、平戸藩の飛び地であったという歴史もあったようで、平戸の「戸」と松浦の「浦」が自分の名前に入っているのも、この縁があってのことかと思います。

佐世保の方は、平戸藩ですけど高校も佐世保商業で先輩がいらっしゃいますが、因縁があるのかと感じながら今日ここに立っています。

仕事は、海の海賊の流れかも知れませんが、地引網を生業としていて、曾祖父から数えて4代目となります。当時は、地引網はどこの浦々でもおこなわれていたのですが、水産県長崎の中でも地引き網を観光としてではなく生計として残しているのは、瀬川漁協だけで冬場から春先にかけて行われています。時折マスコミに取り上げられるのですが、徐々に減少し、現在は6統を残すのみで、年間漁獲量は480tです。鰯の習性を狙い、外海に出ていゆくところを、夕方から一晩中船の集魚灯を二つ点灯させ、その後午前3時頃から4時過ぎまで20名ほどの網子で魚を傷めずに収穫します。私たちが行っている漁は、大変自然にやさしい漁だといわれています。捕りすぎず、次の漁の機会に漁をさせてもらっています。

４６年前生を受けて、地元の小学校中学校を卒業して、中学校の時は今それが役立っているのか生徒会会長をしていました。ただ、今でこそ少しドキドキ感がなくなってきているのですが、ロータリークラブに参加することでドキドキ感を味わっています。

中学校の入学時は、あまり人前で話しが出来るような性格ではありませんでした。そのときの恩師の方から人前で話す事を色々教えて頂いて、今があるように思います。その先生のお導きで、佐世保商業の当時情報処理科に進学し、紆余曲折ありましたが吹奏楽部に入りました。当時、トランペットしか知らない私に「チューバ―を吹きなさい」と言われ、「トランペットを吹かせないなら辞める」と言いながらも3年間吹奏楽部に在籍しました。

その当時は、北高、南高が強く、商業は、銀賞か銅賞かというレベルでした。3年間朝は船もあるのですが、時間がうまく繋がらなくて、西海橋からバスで通っていました。1時間20分吉岡までかかっていました。丁度西海橋から始発が出ていていました。創立記念日に西海橋までの足がないので、3年生の時にこっそりバイクの免許を取りにいきました。西海橋までバイクを使い6時位の始発に乗って商業まで朝からクラブに行って練習して、勉強もせずに3年間過ごしておりました。

父が5年前の8月、父が他界しました。脳出血でした。ショックでした。その時に、大島造船の下請けの浜岡船舶という所に在籍していました。地引網を親父も継いでいましたし、生計を立てる程ではないのですが、何とか残そうと家族と相談して、その年の冬に後継する決意をしました。いろいろな活動しているうちに議員バッジをつけることとなりました。

最後になりますが、仕事以外で一番熱中していることは書道です。地域の子供たちにも書を教えています。
ありがとうございました。

宮﨑祐輔君



1．生まれ育った所

生まれ育ったのは、現在の雲仙市国見町の神代という地区です。お配りした紙に島原半島の絵を載せていますが、これは平成の大合併前の絵で、島原半島には16の町や市がありました。国見町は絵の1番上のところ、有明フェリーが出ているところですが、この町の神代地区には、江戸時代に、石高5千5百石の佐賀鍋島藩の分家があり、神代鍋島家として、城が築かれお殿様や家臣が住んでいました。その武家屋敷は現在も保存され、今は国の重要文化財に指定され保存地区になっています。

なぜ神代に佐賀の鍋島家があったのかは、後になって知ったのですが、ちょうど今、NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」で、秀吉の九州平定があっていますが、その頃の話になります。佐賀は元々は龍造寺家が当主として支配し、鹿児島の島津と覇権を争ってい

ました。龍造寺隆信は勢力拡大のために島原半島に進出し、当時島原半島の最大勢力であった有馬晴信を降して傘下に収めました。ところがその後、有馬は島津と手を結んで龍造寺から離反したため、龍造寺隆信自ら大軍を率いて有明海を渡って神代に上陸し、圧倒的な兵力で有馬・島津軍を攻めながら島原半島を南下しました。ところが有馬・島津軍の、地形や戦術を巧みに使用した反撃にあい、あろうことか大将龍造寺隆信が沖田畷の戦いで討 ち死にしてしまったため、龍造寺軍は総崩れとなり、重臣の鍋島氏を含め佐賀への退却を余儀なくされました。そのまま行けば、いずれ島原半島から佐賀の勢力は撤退していたと思われますが、ちょうどその頃、秀吉による九州停戦令、九州仕置に伴う国割が行われ、神代は鍋島直茂の領知となり、その後鍋島家の分家が置かれ、幕末まで続いたということになります。

明治維新後、そして戦後も子孫によって神代鍋島家は継承され、私は小学校のとき剣道をやっていましたが、神代地区の剣道大会の賞品には全て、鍋島家寄贈ののし紙が張ってありました。皆さん機会がありましたら、神代武家屋敷を見に行ってみてください。

２．仕事

お配りした紙の中段に載っているのは、親和銀行本店別館の、「懐霄館」という建物の写真です。とても銀行の建物とは思えぬ外観ですが、孤高の建築家あるいは哲人建築家と呼ばれる、白井晟一氏の代表作です。類例の無い不思議なデザインで、外壁は諫早石を使って覆われています。正面のエントランス上部には、古代ローマの詩人オヴィディウスから引用した、「輝くもの必ずしも黄金にあらず」という言葉が、ラテン語で刻まれています。私は昭和57年に入社して何度も本店勤務をしましたが、こういう言葉が刻まれているということを最近知りました。

もう一つ、最近になってやっと理解できたことがあります。この「懐霄館」の入口を入ると、小さな噴水があって、その周りにじゅうたんが敷いてあるのですが、しみだらけの斑模様になっています。私は長年、なぜきれいに張り替えないのだろう、親和銀行はそんな貧乏かなと思っていましたが、これも建築当初から描かれている、白井先生のデザインだということを、初めて知りました。

私が今やっている常勤監査役というのは、どういう仕事かと言いますと、取締役と同じく、会社法で定められた株式会社の機関の一つで、代表取締役を含めた取締役の職務の執行を監視し、必要な場合は助言や是正を行うというものです。

これにより、企業の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立するという、責務を担っています。

監査役の職務には、業務監査と会計監査があり、業務監査は、取締役会や常務会等の重要な会議に出席して意見を述べたり、重要な書類の閲覧、部長や支店長から業務の状況をヒアリングしたりします。

会計監査は、決算書等の計算関係書類についての、公認会計士の監査が相当かどうかを確認します。監査役は仕事柄あまり表舞台に出ることは無く、普段は黒子として仕事をやっています。

今年6月に、会社法を改正する法律が成立し、社外取締役や監査役の権限が、一部強化されることになりました。これは、日本の株式市場における外国人投資が増加し、海外からの要請が高まったことが背景です。コーポレートガバナンスを監視する機関として、監査役という制度を有しているのは、日本とドイツだけで、日本の監査役はドイツとも異なっています。そのため、海外投資家からすると、投資先である日本企業のコーポレートガバナンスが、よりわかりやすいもの、言い換えれば、海外と同じようなしくみにしてほしいという事のようです。

３．趣味

今年で40年になりますが、中学2年の時に、熊本に試験を受けに行って資格を取り、以後ハムを趣味として続けています。
日本のハム人口は、昭和から平成にかけて、山や海のレジャー人気に合わせて増加してきましたが、1995年を境に減少に転じ、1995年に135万局あったのが、43万局に激減しています。
原因としては、少子高齢化による自然減に加え、携帯電話の急速な普及による、通信手段の変化によるものです。

ところが昨年、久々にハム人口が増加に転じる現象が起きました。その要因の一つとして考えられるのが、災害時の非常通信手段としての、ハムの有用性が見直され、一部の地方公共団体や企業において、資格取得を促進しているという背景があるようです。東日本大震災の際は、総務省から日本アマチュア無線連盟に、被災地の通信確保のための協力要請があり、この要請に基づいて、多くのハムが各地の災害対策本部との通信支援に協力しました。

最後にちょっといい話をご紹介します。

お配りした紙の一番下に、ハムが交信した相手に送る、交信証カードのコピーを載せています。スペシャルコール「DM45SCHUMI」と書いてありますが、ドイツのハムから私に届いた交信証カードです。

今年の1月19日、どこかの信号が聞こえるかなと、無線機のダイヤルを回していたところ、この局の信号が聞こえました。ドイツの局だとわかりましたが、通常のコールサインと少し違うなと思いながら呼びかけると、応答があり短い交信ができました。交信が終わった後、この局はどういう局だろうとネットで調べてみると、この交信証カードの左側にも書いてありますが、「Get well soon Michael（ミハエル早く良くなって）」というメッセージが現れました。

ミハエルとは、あのF1ドライバー ミハエルシューマッハのことで、ご存知のように、彼は昨年12月、スキーの転倒事故で入院し、昏睡状態が続いていました。このドイツのハムは、ミハエルの故郷の町から、ミハエルの1日も早い回復を願って、その思いで電波を出していた局で、スペシャルコールのDM45の後の6文字は、シューマッハ ミハエルを略したアルファベットになっています。その後シューマッハは、5ヶ月の眠りから目覚め、6月に退院したと報じられました。
ご清聴ありがとうございました。

ＳＡＡ：指山康二君
次回例会／９月１１日１８：３０～
次回献立／若鶏南蛮風、ポタージュ、サラダ、フルーツ